

協力隊通信

2021
Vol.3 6月



写真1. ニホントカゲ。
幼体(上)および成体(下)。

初夏、爬虫類の活動が活発になってきました。爬虫類という
と真夏のイメージがあるかもしれませんが、梅雨が明けると暑
すぎて、活動が朝夕の短い時間
に限られるため、梅雨の晴れ間
あたりが最も観察しやすい時期
になります。そこで、今号から
数回に渡って、爬虫類について
紹介いたしますので、少しでも
興味を持ち、身近な生き物に感
じていただけたら幸いです。



写真2. アオダイショウ。
亜成体(左)と幼体(右)。



写真3. アオダイショウ(写真
2右上の個体)が食べていたカ
ジカガエル。

に対して、自分は未成熟なため
メスを巡る争いには参加しない
とアピールし、縄張りから排除
されないようにするという説な
ど諸説あります。ご家族で一
緒にオリジナルの仮説を考
えてみるのも楽しいのではな
いでしょうか。

山村の個体からは、モグラとカ
ジカガエル(写真3)が確認され
ました。成長につれ色彩が変
化し、幼体はよくマムシ(写真4)
に間違えられますが、写真を見
比べると違いが分かっていただ
けると思います。胃内容物は、
ヘビを解剖するのではなく、触
診して異物があつた場合、そこ
から頭の方へしごいてやること
で吐き出させて調べます。その
後、標本としない場合は、環境
への影響を少なくするために、
吐き出させた時とは逆の方法で
胃に戻してやります。



写真4. ニホンマムシ。赤矢印：ピット器官。
青矢印：マダニ。



写真5. ニホンマムシが食べていたネズミ.



写真6. ジムグリ.
横顔(上)、背面(中)、
腹面(下).

ニホンヤモリ(本文なし).
再生尾の個体. 尻尾は切れても生えてきます. すごい能力ですね.

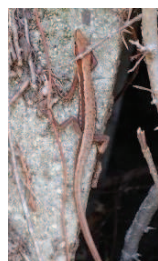


最後に。ヘビは積極的に人間に向かってくるような凶暴な生き物ではありません。近づけば逃げて行きます。マムシのように動きが鈍く、隠蔽色に頼っている種は、じっとして動かないこともありますが、邪魔であれば棒などでつついて逃がしてあげてください。伝統的に行われてきたマムシ酒や漢方などへの利用に関して物申すつもりはありませんが、「怖い」、「気持ち悪い」、「邪魔」といった理由でむやみに殺生することだけはやめていただきますよう、よろしく願います。

ニホンマムシ(写真4)は、県のレッドリストでは希少種に指定されています。主に、カエルやネズミなどの小型の脊椎動物を食べていますが、ムカデも食べるのが知られています。上北山村の個体からは、ネズミ(写真5)が確認されました。体長50cmほどの個体から得られたもので、ヘビがかなり大きな獲物を丸呑みにすることがよく分かります。鼻の穴のように見える部分はピット器官と呼ばれ、ここで熱を感知しています。実際にマムシがどうい認識をしているのかは分かりませんが、例えるなら「プレデター」がジヤングルで兵士を見ているような感じなのでしょうか?また、写真の個体はマダニに寄生され

ています。これまでいくつもの地域でヘビを見てきました。それに比べ、上北山村のヘビはかなりマダニの寄生率が高いようです。ちなみに最大16匹に寄生されたヤマカガシを確認しています。私も2匹同時に噛まれていることがあります。16匹いたらと思うとぞっとします。
ジムグリ(写真6)は、県のレッドリストでは希少種に指定されています。山地や森林に生息し、主に、小型の哺乳類を食べています。渋い色彩で可愛らしい顔つきをしています。お腹側には特徴的な市松模様が入っています。前号で、イモリの赤いお腹には、警告色としての機能があると書きましたが、ジムグリのお腹の模様にはどんな機能があるのかは分かっていません。

トカゲと違いヘビは色覚を持たないため、ヘビ同士のコミュニケーションでは無いと思われませんが、普段見えないお腹になぜこのような模様があるのか不思議です。確認されていませんがイモリのように捕食者に襲われた時に見せるのか、適応的な機能はないのか、興味深いところです。これを読んだ子どもたちが将来、この問題を解き明かしてくれたり嬉しい限りです。



ニホンカナヘビ(本文なし).
トカゲに比べほっそりとし、鱗にキール(鱗中央に入る線状の突起)があるためざらっとした感じに見えます。